

# 長良川河口堰反対！！

An aerial photograph of a dam construction site. A long, narrow concrete structure is being built across a river. Numerous workers in blue hard hats are visible along the top edge of the structure. The surrounding area is a mix of green fields and brown earth, indicating a rural or semi-rural setting.

6班 メンバー

伊藤真利子

金沢杏菜

熊谷翼

白鳥喜之

根本徹

森下正人

# 長良川



# 長良川の魅力

豊かな水量ときれいな水の流れ  
名水の宝庫

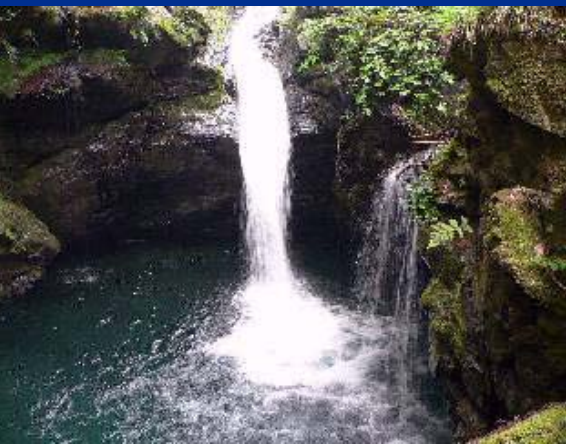
水に関係の深い産業が発達

美濃和紙・漁具・藍染





魚の種類日本一  
伝統的な鵜飼い  
天然の鮎



# 長良川の現状1

## 葦原の消失

野鳥、昆虫、魚の生息地、営巣地、産卵地

水が浄化されなくなる



# 長良川の現状2

- **アオコの発生**

当初、建設省はアオコは発生しないと主張  
実際には発生した

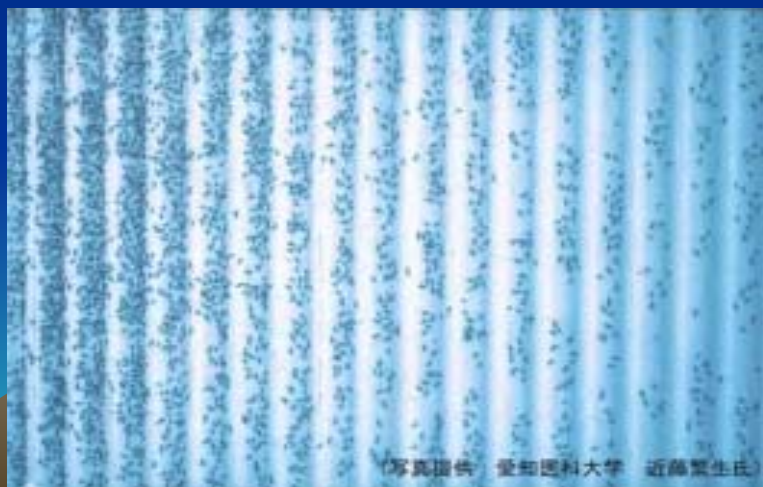


# 長良川の現状3

- **底質のヘドロ化**

川の流速低下 ヘドロ化

将来、悪臭やユスリカの発生の恐れ



(写真提供 愛知医科大学 近藤繁生氏)

キソガワフユスリカ *Hydrobaenus kondoi*



# 長良川の現状4

- ヤマトシジミがほぼ全滅

河口堰の運用によって広大な汽水域の大部分が淡水に

淡水性のマシジミさえも激減



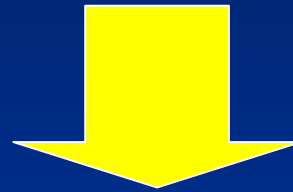
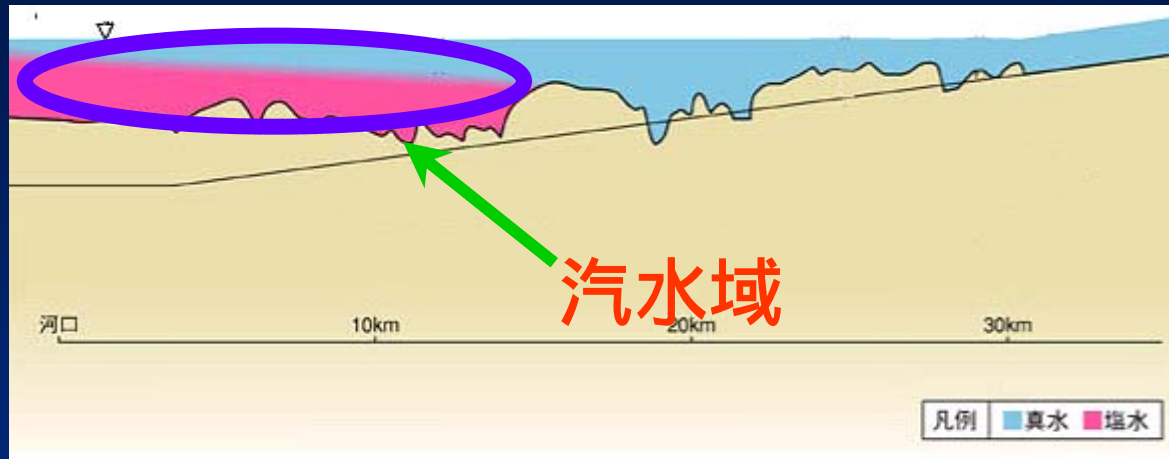
ヤマトシジミ



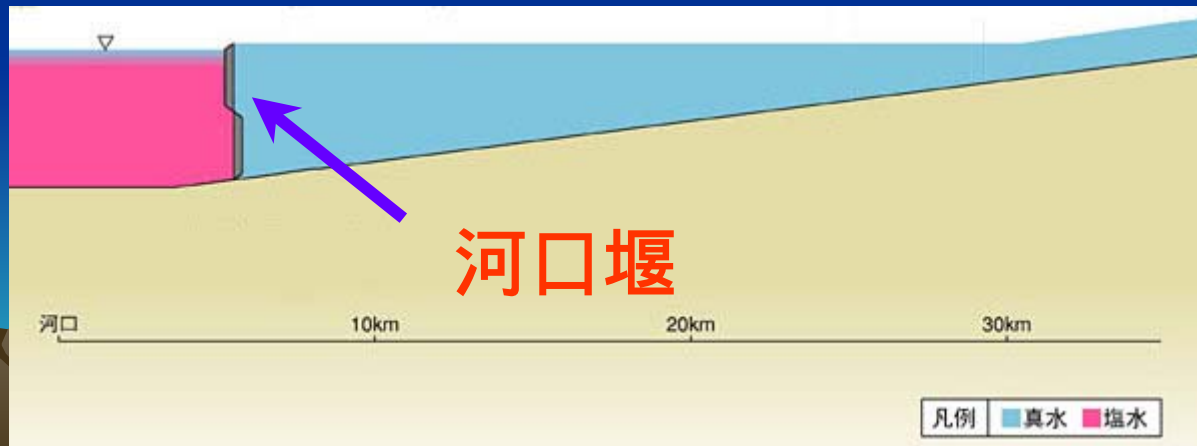
マシジミ



# 浚深及び河口堰建設前



河口堰完成後 汽水域 ほぼ消滅



# 長良川の現状4

## ● アユ、サツキマスなどの遡上の減少

建設省は湧水の影響による  
一時的なものだと主張  
手遅れになってからでは遅い



中日 2005年3月10日

〔1〕 岐阜11版 第22458号

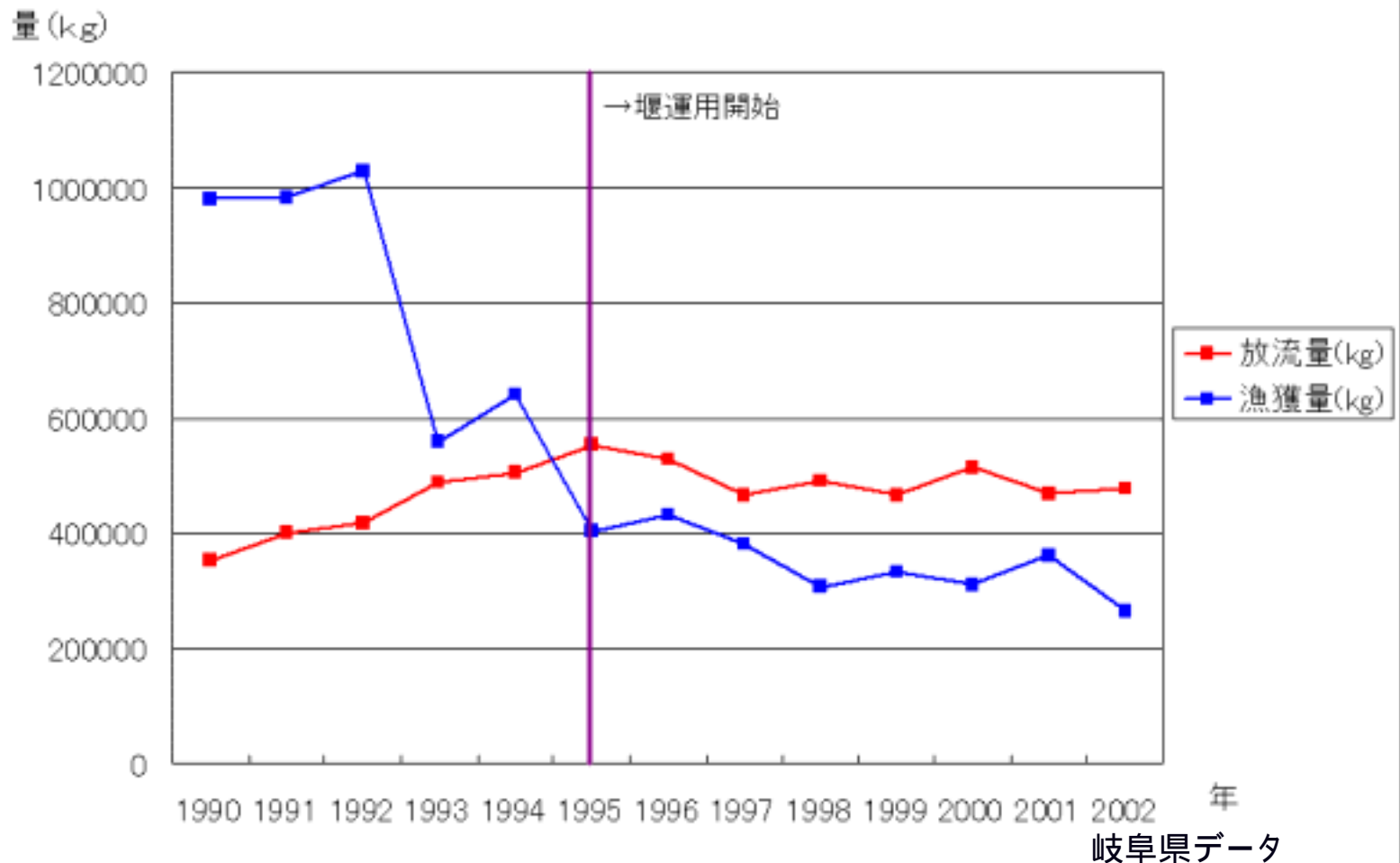
### 河口堰10周年

## 長良川のアユ8割減

#### 岐阜県調査 ピークの92年から

一九九五年七月に本格  
運田が始まった長良川河  
口堰（せき）と三穂堰  
名市は今年、十周年を  
迎えるが、上述の坂田照  
の昔川水系の二〇〇三年  
のアユ漁獲量が、せき築  
設前のピークだった一九  
九二年の約五分の二にま  
で落ち込んだことが、岐  
阜県の調査で分かった。  
せきを管理する水産試験  
場と国土交通省は「せき  
の影響はない」とする  
が、水揚げ量から「激減  
した」と指摘してきた川  
の九つの漁協の中古漁獲  
量は、長良川と支流  
の二つを除いて、一  
九七〇年と比べて、  
一九九二年は二  
一九九二年は二  
一九九二年は二  
一九九二年は二

# 長良川におけるアユの放流量と 漁獲量の推移



# 長良川の現状5

## 長良川鵜飼いの衰退

- 宮内庁の鵜匠によって行われる
- 1300年の伝統を誇る



「昔は橋から見下ろしたら、アユが帯になって上ってくるのが見えたもんだよ」。岐阜県関市の長良川。鵜飼いや、ズンを前に、鵜匠(うししょう)の一人が懐かしんだ。

長良川ではアユの漁獲量減少が続く。アユの遡上(そじょう)に変化はないとされるが、鵜匠の実

感はずっと違った。昔はアユが八匹入る「せいろう」に一日の鵜飼いで四十箱ほど捕れたこともあった。

それが、今は「二箱がせいせい」という。

### 鵜飼

が頼みの綱になる。

河口せき、護岸工事、山の保水力の低下。アユが減っている原因はいろいろ考えられる。今年は昨秋の台風でアユの餌が付く岩がなくなっ

たのも気がかりだ。

かがり火の中、鵜がアユを捕らえる本物の鵜飼いを見せたいと、鵜匠たちは願っている。(一)

### 目録

稚アユを放流しているが、放流のアユはどうしても岸に寄る。流れの中で行う鵜飼いで捕りづらく、遡上の天然もの

漁協は毎年盛んに

そもそも何故  
河口堰が**つくられたのか？**



# 河口堰がつけられた理由

洪水・高潮対策

河口面積の確保

川底の浚渫

副作用

塩害

河口堰



洪水・高潮対策はクリア



# 河口堰がつくられた理由

1960年代：高度経済成長期

水資源の確保

河口堰上流の淡水化



では、塩害の心配がなく  
水資源の需要がなければ  
河口堰は必要ないということになる





# この2つの観点から検証

1. 塩害対策
2. 利水



# 塩害対策の観点から

- 農業用水は木曾川から確保
- 海水の遡上が大きな被害をもたらすことはない

河口堰建設費 1800億円

維持管理費 13億円/年

塩害被害額 1200万円/年

塩害は河口堰を建設するほどの問題ではない！

# 利水の観点から

- 新規開発された水資源

利用されているのは **1割**

無理やり利用 水の需要がないから！

- 大規模な水資源開発により、水の供給量はすでに十分確保

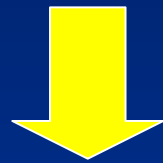
では今後どうすればよいか？



# オランダでは…

歴史的に治水に苦しんだ

1970年 ハーリングフリート河口堰運用開始



しかし

- 生態系への被害が運用1年目から出始める
- 30年でヘドロが7m堆積

オランダでも河口堰の是非が  
議論された

政策を転換し、コントロール  
タイドでゲート開放をすること  
に決めた

コントロールタイド:

少しだけ常時ゲートを開けておく事



# オランダはなぜ全面開放 しなかったのか？

30年も経ったせいで…

- 全面開放するとヘドロが一気に流出
- 取水口の移動に多額のお金がかかる

コントロールタイド(一部開放)へ



# 河口堰代替案：長良川の場合

長良川の運用年数は10年今ならまだ間に合う

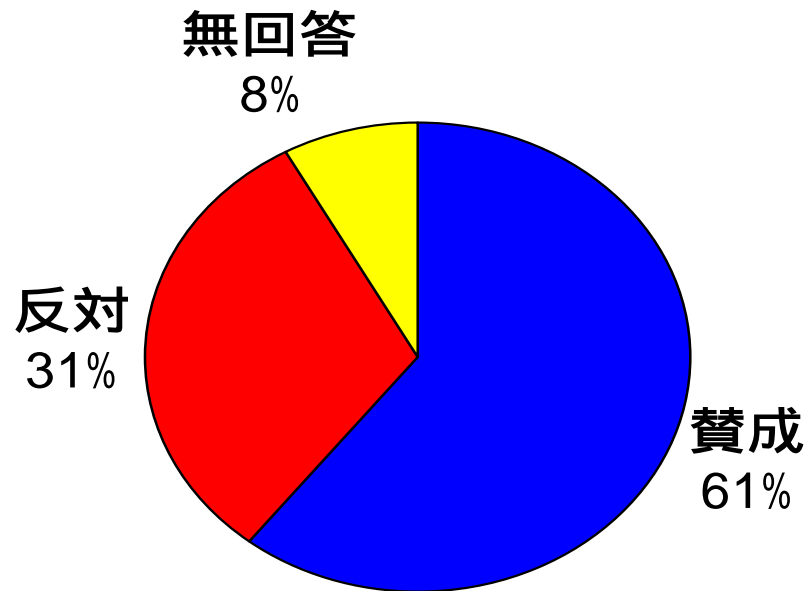


ストームサージ(全門開放)をすべき！！



# 長良川流域の住民の声 ゲート開放について

塩害・水不足が生じる場合



# 結論

オランダの事例および塩害・利水両面の検証より、我々は長良川河口堰の全門開放を提案する！